



# やなぎ美智子からのお便り

事務所：市川市鬼高2-5-16 清央荘101号室

メールアドレス：kangoshi@hotmail.co.jp

やなぎ携帯：090-1508-7120

## 戦争か平和か

### 「核兵器廃絶平和都市宣言」 を生かす市川市を



プーチン大統領は核兵器で世界をおどし、原発まで攻撃しています。ウクライナでは、子どもを含む多くの市民のいのちが犠牲になっています。

#### 残虐行為は国際法違反

戦時下の医療組織の保護、無差別攻撃禁止、原発攻撃対象禁止などを定めたジュネーブ条約にロシアが違反しているのは明らかです。

#### 国連は無力ではない

「市民を殺すな、国連憲章を守れ」の国際世論の高まりで、国連機能も変化しています。ベトナム戦争では国連決議は無し。イラク戦争では武力行使容認決議を阻止するも、非難決議は無し。今回、ロシアのウクライナ侵略では安保理の否決を逆転させ、国連非難決議を採択しました。これは21世紀に入って初めてです。しかも過去最多の141か国（73%）の賛成でした。

#### 世界の反戦行動

世界76か国以上で反戦行動が起き、ロシアでも弾圧下、反戦運動で1万4千人以上が拘束され、その何十倍もの行動が広がっているなど、日本のメディアがほとんど報道しないことも知りました。

#### 憲法9条に背く動き

岸田政権、自民、維新等はウクライナ問題に乗じて非核三原則見直し、核共有論、先制攻撃につながる敵基地攻撃能力、憲法改悪、軍事同盟強化、軍事費2倍化の危険な道を進んでいると厳しく批判しました。憲法9条をもつ日本は反戦反核の先頭に立つべきです。

## 核兵器廃絶平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いである。この普遍の願いにも関わらず核軍備の拡張は依然として行われており、人類は核戦争の脅威にさらされている。わが国は、世界唯一の核被爆国として核兵器の恐ろしさ、被爆者の苦しみを世界の人々に訴え、再び広島、長崎の惨禍を絶対に繰り返させてはならない。

私たち市川市民は、生命の尊厳を深く認識し、国是である非核三原則が完全に実施されることを願い、いかなる国のいかなる核兵器に対してもその廃絶と軍縮を訴え、恒久平和確立のため、ここに「核兵器廃絶平和都市」となることを宣言する。  
昭和59年（1984年）11月15日 市川市



市川市平和委員会（準備会）では「核兵器廃絶平和都市」を宣言している市川市で平和運動を具体化させたいと議論を重ねています。オスプレイ市内上空飛行、旧庁舎に設置されていた「宣言塔」の設置等、市川市に直接関わるテーマをとりあげています。

### 無料法律相談

5月10日（火） 6月14日（火） 午後2時～5時

市役所第一庁舎 6階 共産党控室

相談を希望される方は事前予約が必要です。市役所共産党控室か、やなぎ美智子にご連絡ください。

電話：047-334-1111（内線18218）

# 月額約27,000円支給の「特別障がい者手当」は 要介護4と5の人は対象の可能性

国は、特別障がい者手当の支給要件を「精神又は身体に著しく重度の障がいを有するため、日常生活において常時特別の介護を必要とする状態にある在宅の20歳以上の者」と定めています。

「著しく重度の障がい、常時特別の介護」との定めでは、対象者を狭くとらえがちですが要介護4と5の人は対象の可能性があります。寝たきりの人、車いすで介助が必要な人、認知症の人で受給した人もいます。

「在宅」とあるので、支給対象は自宅介護だけと解釈されますが、グループホーム、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホームは施設入所にあらず支給は継続されます。

## 制度の周知徹底を

受給できるのに申請していない人はかなりの数にのぼる可能性があります。日本共産党は国や自治体に対して制度の周知の徹底を求めました。私はこの間「障がい者ハンドブック」「広報」での周知、介護関係資料送付時の工夫など、具体的な提案を行ってきました。

2020年12月2日、日本共産党の宮本徹議員は国会で「各自治体で、障がい者福祉の窓口、介護保険関係窓口、ケアマネなどを通じて、しっかりと周知されるよう国としても徹底を図ってほしい」と求め、田村厚労大臣（当時）が「周知することは大変重要だ。国としても努力していきたい」と答弁しました。

全国各地で進む取り組み ケアマネージャーに説明会をして制度を知らせる、要介護認定を行う窓口で渡すパンフレットに特別障がい者手当について添付する、介護保険課に申請用紙を置くなどの対応が進められています。

市川でも手当の対象になる人にきちんと届けられるように取り組んでいきます。

## 市民アンケートに寄せられた声の実り 車道からの段差が解消され歩道も補修されました

4月16日朝、鬼高地域にある集合住宅の住民の方から「段差解消の工事をしている。要望通りに改修されるようです」とラインで写真が送られてきました。（写真右）

昼過ぎに現地に行くのですが、工事は終了していました。市道と、集合住宅入り口の歩道との段差は解消され、歩道も舗装されました。（写真左）集合住宅は2棟並んでおり、2棟とも改修されました。日本共産党市川市議団が行っている市民アンケートに、「段差でつまずき、危険なので改善してほしい」と声が寄せられていました。つまずいて転倒した人もいました。応急的な工事を経て、要望通りの状態になりました。



改修工事終了直後撮影



工事の様子